

**授業概要**

日本語の文章の書き方を基礎から学ぶ。毎回、辞書を片手に、ワークシートや作文などの課題に授業中に取り組む。作文は添削したものを次回以降の授業で返却する。ビジネス文書などの実用文を書けるようになることを大きな目標として、敬語の使い方などの基礎から学ぶ。

本授業は1年生の教養演習を終えている、2年生以上の学生の受講を想定しているが、1年生も逸早く受講することは可能である。また、人間文化学科以外の学生も受講することができる。

**授業計画**

第 1 回	ガイダンス・手紙のやりとり①
第 2 回	口頭のやりとり①
第 3 回	メールのやりとり①
第 4 回	メールのやりとり②
第 5 回	電話のやりとり①
第 6 回	口頭のやりとり②
第 7 回	手紙のやりとり②
第 8 回	複合的なやりとり①
第 9 回	メールのやりとり③
第 10 回	メールのやりとり④
第 11 回	複合的なやりとり②
第 12 回	メールのやりとり⑤
第 13 回	手紙のやりとり③
第 14 回	手紙のやりとり④
第 15 回	メールのやりとり⑥
第 16 回	まとめ（試験日は通常授業実施）

**到達目標**

社会人として必要なビジネス文書などの実用文を書く能力の基礎を身につけることを目標とする。

**履修上の注意**

遅刻・欠席はしないようにしてほしい。授業では毎回、課題（ワークシート、作文）に取り組む。授業内容は積み上げていく方式なので、欠席すると次回の授業内容についていけなくなる恐れがある。国語辞書（紙の辞書でも電子辞書でもよい）を毎回持参すること。

**予習・復習**

予習は、前回の授業内容を振り返ること。復習は、返却された作文を見直すこと。

**評価方法**

課題（ワークシート、作文）（50パーセント）、その他受講態度等（50パーセント）で評価する。

**テキスト**

教科書は使用しない。その都度、授業資料を配付するので、資料をなくさないように管理すること。

## 授業概要

社会人として、正しい日本語表現能力は、必要不可欠のものです。

「日本語の運用」では、教育者として必要な正しい日本語表現を、小中高の「学習指導要領」に示されていることに準拠し、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の四つの分野から具体的に学習し、最終的には論文を書くことへつながるように指導します。高等学校の国語科の復習を行い、正しい日本語表現に興味を持ち、基礎から身につけることが目標です。同時に、言葉についての様々な知識や書籍・新聞等に関する様々な教養・情報についても講義します。また、全員が、スピーチの実演を行えるように指導を行います。

「文章作成法」に接続する形で授業を行いますので、秋期の「文章作成法」の履修を予定している者の受講が望ましいです。教育者・保育者養成を視野に入れておりますので、子ども発達学科の学生の受講が望ましいです。

## 授業計画

第 1 回	ガイダンス、聞くこと①—聞き方
第 2 回	聞くこと②—講演の聞き書き
第 3 回	話すこと①—人前での話し方
第 4 回	話すこと②—スピーチの方法、スピーチ原稿の書き方
第 5 回	スピーチ実演①—基礎
第 6 回	スピーチ実演②—応用
第 7 回	読むこと①—音読・朗読
第 8 回	読むこと②—名著を読む
第 9 回	読むこと③—電子書籍、新聞を読む
第 10 回	書くこと①—表記・語彙・熟語
第 11 回	書くこと②—類義語・対義語、同音・同訓異義語
第 12 回	書くこと③—慣用句・ことわざ、用字法・句読法
第 13 回	書くこと④—原稿用紙の書き方、主語・述語・修飾語
第 14 回	書くこと⑤—指示の関係
第 15 回	書くこと⑥—接続の関係
第 16 回	総まとめ（筆記試験）

## 到達目標

「聞くこと」「話すこと」についての基礎力を高めます。特に聞き書きやスピーチの方法を学び、他者の話を聞き書きしたり、人前で話す力を高めることを目標とします。また、「読むこと」では、様々な動機づけによって、活字に慣れ親しむことをめざします。「書くこと」については、文章表現の基礎力を養成し、秋期の〈文章作成法〉へとつなげてゆきます。

## 履修上の注意

全員が原稿を書きスピーチを行いますので、積極的に参加する心構えで受講することを、強く希望します。また、レポート等の課題の提出もありますので、期限を守って必ず提出してください。

遅刻は 20 分以内までとし、遅刻 3 回で欠席 1 回とします。

最終的には論文・レポートを書くことにつなげてゆきますので、秋期の「文章作成法」の履修を予定している者の受講が望ましいです。教育者・保育者養成を視野に入れておりますので、子ども発達学科の学生の受講が望ましいです。

## 予習・復習

レポート等の課題は、必ず提出してください。また、スピーチにあたっては、事前に原稿を書いて読む練習を行ってください。

## 評価方法

受講態度・発言・スピーチやレポート等の課題・コメント・期末試験などを、総合的に評価します。なかでも、スピーチは、原稿・実演ともに評価の比重が高いため、注意してください。

期末試験 50%、課題 30%、受講態度 20%

## テキスト

資料は、授業内で指示します。